

仙北市病院事業の現状

- 近年の医師不足や診療機能の縮小、地域人口の減少、さらには新型コロナウィルス感染症の影響など、医療を取り巻く環境は一層厳しさを増し、さらに、物価高騰や人件費の上昇、補助金の減少、企業債の償還負担増などの要因が重なり、大変厳しい経営状況にあります。
- 令和6年度決算の経常損益は約8億円の赤字となりました。この収支の悪化に伴う資金不足を補うために一時借入金に頼らざるを得なくなり、令和6年度末の一時借入金残高は過去最高の15億円。このため、資金不足比率は国の定める経営健全化基準（20%）を大きく上回る35.1%となりました（計画書3～4頁）。
- 国の定める経営健全化基準を上回った当市は、経営健全化団体として病院経営の健全化を図るための計画（経営健全化計画）の策定が義務づけられ、安定的に基準未満となるよう、自主的に費用の抑制や収益の確保に取り組むことになりました。
- 令和7年度決算見込みにおいても経常損益は約9億円の赤字が見込まれ（計画書24頁）、一時借入金は約23億円と更に拡大し、資金不足比率は57.9%へ上昇する見込みです（計画書22頁）。この状態が続くと数年以内に資金ショートに陥るという危機的な状況にあります。
- 病院事業の経営悪化を市が支援するとしても、多額の債務整理により財政調整基金が枯渇する恐れが高く、福祉・教育などの市民サービスや道路・学校などの施設整備等、市政全体に影響が及ぶ可能性が高まります。
- このように、病院経営が成り立つという前提条件が著しく変化するという緊急事態となっており、市民生活への悪影響を最小化し、地域医療を維持するため、2つの市立病院のあり方について、早急に最適解を見出す必要があります。